

国宝 旧開智学校校舎

旧開智学校校舎は、西洋のデザイン要素を日本の伝統建築で再現した「擬洋風」と呼ばれる建築様式で有名である。

松本出身の大工、立石清重（1829-1894）が設計した 2 階建ての建物である。立石は洋風建築を任されたが、当時の日本の建築家の多くがそうであったように、石や煉瓦を使った建築の経験がなかった。そこで立石は、木造校舎を西洋風に見せるための工夫を凝らした。例えば、1 階下部の「石積み」は、実は漆喰でできている。擬洋風とは、1868 年の明治維新以降、日本が鎖国を解き、西洋の思想や技術を取り入れるようになったことで、流行したデザインである。

この学校は、もともと松本の中心部、女鳥羽川のほとりにあり、1876 年から 1963 年まで小学校として使用されていた。1964 年に現在の場所に移設され、現在は日本の教育史に関する資料館として活用されている。2019 年、旧開智学校校舎は教育建築物としては初めて国宝に指定された。